

鹿児島大学大学院連合農学研究科渡日前入学者選抜の手順

平成 29 年 7 月 7 日 研究科長裁定

- 1 鹿児島大学大学院連合農学研究科（以下「研究科」という。）渡日前入学者選抜の実施については、鹿児島大学大学院連合農学研究科入学者選抜等に関する細則に定めるもののほか、この手順に定めるところによる。
- 2 主指導教員及び副指導教員の決定
 - (1) 研究科長及び副研究科長は、出願締切後に、予定する主指導教員について原案を作成する。
 - (2) 研究科長は、予定する主指導教員に依頼し、副指導教員を決定する。なお、予定する主指導教員を出願者の希望と異ならせようとするときは、研究科長及び副研究科長はガイダンスを行う。
- 3 渡日前入試が受験可能な対象者
 - (1) 入学を志願する者が母国の政府と J I C A 等とのマッチングファンドにより奨学金を受給予定で入試の渡航費用が当該の奨学金等に含まれていない者。
 - (2) 「国家建設高レベル大学公派研究生項目」により入学を志願する者。
- 4 小論文及び口頭試問の方法
 - (1) 小論文及び口頭試問は、出願者のある連合講座ごとに行い、当該連合講座の代議委員会委員が主宰となる。ただし、主宰者となる者が欠席の場合は、入試委員長（研究科長）の指名した者がその職務を代行する。
 - (2) 小論文・口頭試問委員は、代議委員会委員、主指導教員予定者及び副指導教員予定者をもって充てる。ただし、必要と認められた場合は、他の研究科教員を加えることができる。
 - (3) 小論文及び口頭試問の実施は次の手順による。
 - ア 修士課程又は専門職学位課程修了者又は修了見込の者の口頭試問は、修士論文又は専門職学位論文若しくは修士論文研究経過報告又は専門職学位論文研究経過報告及び今後の研究計画の内容等をスカイプ等を通じて発表させて行う。ただし、予定する主指導教員か副指導教員のうち 1 名が受験生のいる会場に必ず立ち会いのもと実施する。
 - イ 上記ア以外の者の口頭試問は、修士学位相当の論文等及び今後の研究計画の内容等をスカイプ等を通じて発表させて行う。予定する主指導教員か副指導教員のうち 1 名が会場に必ず立ち会いのもと実施する。
 - ウ 小論文は、試験当日にテーマを与える。
 - エ 入試委員長は、出願者の履歴書、修士論文又は専門職学位論文の概要若しくは修士論文研究経過報告書又は専門職学位論文研究経過報告書の概要又は修士学位相当の論文の概要及び研究計画書を小論文及び口頭試問の実施前日までに、小論文・口頭試問委員に配付する。
 - オ 入試委員長は、小論文問題・解答用紙を小論文試験の実施当日に小論文・口頭試問委員に配付する。
 - カ 外国人の出願者に対しては、英語によることができる。
 - (4) 小論文及び口頭試問の場所等は次のとおりとする。

場 所	実 施 方 法	
鹿児島大学大学院 連合農学研究科等	小 論 文	A 4 判（横書き）用紙 1～2 枚 ： 1 時間 ※予定する主指導教員か副指導教員のうち 1 名が小論文の会場に必ず立ち会いのもと実施する
	口頭試問 （スカイプ等 による）	1 人当たり 口頭発表：20分程度 すべて出願者の責任において機器の準備・調整等を行う。 質疑応答、その他：20分程度

- (5) 小論文及び口頭試問終了後、代議委員会委員は、連合講座ごと小論文及び口頭試問の結果を入試委員長に報告する。

- (6) 入試委員長は、直ちに報告を整理し、入試委員会に提出する原案を作成する。
- 5 入試委員会は、研究科教授会に提出する合否判定案を作成する。
 - 6 合否の判定は、研究科教授会が行う。

(参考)

「マッチングファンド」とは、本来、市民・企業・行政等が資源を持ち合い、より規模の大きい活動を実現させるために共同になって寄付や補助金といった資金を提供しあう制度をいう。

「国家建設高水準大学公派研究生項目」とは、

中国の重点的に整備された高水準の大学から、優秀な学生を選抜し、国外の一流大学に派遣するプログラム。2007 年から中国国家留学基金管理委員会が募集し、経済的支援を行うことにより毎年 5,000 人～6,000 人の学生を派遣している。